

2023年度 手城こども園 自己評価(重点的に取り組んだこと・成果及び課題)

① 幼保連携型認定こども園に移行するために、保育・教育課程、保育計画、安全計画等を見直す。

危機管理マニュアル、保健・安全計画等に教育及び保育教諭の役割を含めて再編成した。短時間保育と標準保育、0歳児から6歳児までの多様なニーズに対応するため、職員会議だけでなく各自が積極的に研修に取り組み自園の課題(主体的な保育とは何か)について意見交換をしていった。

② 不適切な保育についての話し合いを定期的におこなう。

自園チェックシート(NGワード)・人権擁護のためのセルフチェックシートを用いて意見を出し合い、出来ることから改善していった。集団の中で子ども一人ひとりの思いを実現していくことは難しいことも多く、危険な行動を止めるには、丁寧な関わりが出来にくいことが課題。アドバイザーからの意見を参考に環境設定の見直しをすすめていった。

③ ICT化システムを取り入れて業務省力化し、保育の見える化、又ノー残業、休憩時間の確保、ノンコンタクトタイムに取り組む。

働き改革といわれる中、保育教諭は行政から必要とされる膨大な資料等に苦慮している。また、特に一人担任は勤務時間内にきめ細やかな保護者対応をすることは難しい。その為2023年度から本格的にキッズビューを取り入れICT化を進めていった。システム自体になれることが出来ず試行錯誤している状況。まだ業務省力に繋がっていないが無理のないように少しずつ前に進めていく。ノー残業、休憩時間の確保については、リーダーの職責として職員が働きやすい、ゆとりを持った保育ができるように取り組んだ。

他者評価 6月3日保護者アンケート実施表 回答率 89%

いいえが5人以上(2%以上)のものについて重点的に職員会で話し合いをしました。

<施設環境>

問4 園の環境は安全な対策が取られていると思いますか。 2%

問5 お子さんが生活するところ(保育園内外の環境)は落ち着いて過ごせる雰囲気ですか。 2%

遊具の安全点検は、定期的実施している。また毎月避難訓練を行い、子どもたちに安全教育も実施している。その他、防犯訓練や地震訓練など定期的に行っている。

日中については、各クラスで子どもの育ちにつながる環境設定に取り組んでいるが、早朝・延長保育時は、少人数の保育教諭が安全を最優先して保育しているので落ち着いた環境づくりは人的に難しい。その中でも、子どもが遊びを選べる環境づくりに取り組んでいる。

<毎日の保育>

問 7 登降園のお子さんの受入れ・引き渡しは適切に行われていると思いますか。2%

16 時 30 分から 18 時までの保育利用者が大変多く、子どもたちが外に出ていけないように怪我・トラブルがないように細かい気配りをしています。当園だけでなく早朝・延長保育の人材を確保することは非常に困難な状況。保護者の皆様にもっと丁寧にかかわりたいという思いと勤務時間内での対応をしなければいけないことに苦慮している。**※登降園時、保育室入り口までの子どもの送迎にご協力ください。**

問 12 保育者や他の職員の保育姿勢や対応にばらつきはないですか。8%

職員は、幅広い年齢構成となっており、園児・保護者への対応についての考え方が乖離しないようにリーダーを中心として職員全員が共通理解する。

掲示板を使い伝達漏れのないようにする。

職員が保護者に子どもの状況をしっかり伝えて、安心感と信頼感を持って いろいろな活動に取り組む環境を作り上げていく。

<保護者の方の保育園との関わりや交流>

問 24 園の行事を通して地域住民との交流を図っていることを知っていますか。5%

地域住民との交流には、次のものがあります。

(手城学区老人クラブ)高齢者と幼児の福祉の集い。手城学区ふれあい大会に参加。高齢者施設への訪問。JA 農協主催の交流会に参加。春の防火予防の街頭広報等
※キッズビューを通してお知らせしていく。

<2023 年度 苦情窓口寄せられたご意見 4 件への対応>

① 近隣住民より 自宅前に駐車しないでほしい

理事と園長で謝罪に何うが会っていただけていない。時期をみて再度謝罪したい。

② 子どもが同じ子からよく叩かれている。叩いている子の保護者へ知らせているのか。

また、こども園での対応について知りたい。

怪我につながるようなことがあった場合は、叩いたという事実だけでなくその背景についてもお知らせしています。

③④ 保育士の行動・言動の確認 (子どもの発言と保育士の発言に乖離があるため具体的に事例をあげていません。)

保育士と子どもとの問題となる言動に食い違いがあった。園児一人ひとりの特性、家庭環境、保育時間等を理解し、発達段階にあった支援が行えるように取り組んでいくことを職員会で話し合った。少人数での保育は出来ないためサブリーダーと協働し、子どもや保護者の方にはプラスの発信、自己肯定感の持てる発言を心がけていく。

2024年度 重点的な取り組みの課題

(1)質の高い乳幼児教育・保育事業の充実

☆幼保連携型認定こども園の役割を理解し、子どもの最善の利益を考慮し、地域に開かれた園として幼児教育・保育事業を実践していく。

☆子どもたちの生きる力(自発性、想像力、判断力、問題解決力)の基礎を養うため、その土台となる「思考力や想像力、表現力を」を身につけるため、0～5 歳児の発達段階に応じての日々の保育・教育において自由に創意工夫できる環境を整えていく。

(2)発達障害、情緒障害のある児童に対する支援体制の強化

発達障害の特性を持つ一人ひとりに応じた細やかな支援をしていく

専門家・専門機関との連携をしていく(広島県幼児教育アドバイザーの訪問を継続的に受け子どもが主体となる環境づくりを学ぶ)

キャリアパス(資格取得)だけでなく、積極的に研修を受講していく。

※手城こども園の職務リーダー全員資格取得は終了している。

(3)保護者の不安に応え、課題や悩みを共有する関係を築く。

キッズビュー等を利用し、日々の保育や保育・教育内容等についての情報発信することにより保育の見える化に取り組んでいく。

(4)園活動を通して、より地域に根ざしたこども園をめざす

園行事も通常通り実施できるようになった。これまで地域の方と実施してきた事業は継続していくが、子どもが主体に出来る事業であるかも含めて職員共に再考していく。